

4394 地球のかおり：「スロバキアの朝」（産経新聞）心模様

何はなくとも、空気が美味しい。

日本を、出国したのは、4月。

香港経由、ポーランドへ。そして、チェコ経由

スロバキアの首都、プラスチックラヴァへ、入国した。

ウイーンや、ブタベスト、と同じように、

ドナウ川の恩恵を受けて、成長した都市である。

1992年、チェコから、分離独立した、小さな国。

旧共産圏、人口は、550万。

10世紀初頭から、約1,000年、スロバキアの地方として、

ハンガリー王国の支配下にあった国、

独自の文化を築いて、独立を、勝ち得た国でもある。

スロバキア人が、8割。ハンガリー人、

チェコ人、ウクライナ人、ポーランド人など。

気候は、大陸性で、冬の寒さが厳しい。

私が訪ねたのは4月、まだ寒い。早朝には、氷がはる。

都会はともかく、農村は、肌寒く、荒涼とした印象。

足元は冷たく、目を楽しませるものが、ほとんどなかった。

身も凍るような朝だった。

しかし、何はなくとも、空気が美味しい。

私には、ごちそう。

スロバキアの中央部に来た時、この光景に遭遇した。

山の雪景色は、まだ、どんよりと見える程度。

だんだんと明るくなり、山に光が射した。

そして、この木に出会った。

枯れ木のように見えるが、存在感が、増してきた。

遠近の対比を、面白く感じた。

立つ位置も探した上で、

しばし、休息をとることにした。

なぜ、この光景に惹かれるのか、自問自答。

子供の時に見た光景でもない。

誰かに、絵だったのか。

寂しい光景なのだが、寂しさを感じない。

その時だった。鳥が2羽、つがいだろう、

絵を描くなら、あの枝あたりにと、思った瞬間、

テレパシーが、通じたのか、眼前の光景になった。

突然、朝日の輝きも、光を増した。

不思議な瞬間だった。

心が、少し沈みがちだったが、

鳥と、雪山と、陽光のおかげで、俄然、元気をもらった。

その後の旅が、面白くなったのは、言うまでもない。

人間一つのこと、楽しくなれる。

大自然のパワー。試練と偶然。運が良ければ・・・

時に、ラッキー、スマイル、オン、ミー。

私に気が、充実した瞬間だった。